

景観育成デザインマニュアル

信州の
景観育成には
「作法」があります。

長野県

長野県 景観育成 デザインマニュアル

目 次

第1章	長野県の景観特性（長野県景観育成計画）	
1-1	全体の構造	2
1-2	地域の特性	4
第2章	基本目標（長野県景観育成計画）	
2-1	基本目標	8
2-2	役割	9
第3章	景観育成手法と事例	
3-1	地域別	11
3-1-1	都市地域	11
3-1-2	沿道地域	33
3-1-3	田園地域	53
3-1-4	山地・高原地域	75
3-2	行為別	95
3-2-1	土地の形質の変更	96
3-2-2	土石の採取及び鉱物の掘採	98
3-2-3	屋外における物件の集積又は貯蔵	100
3-3	施設別	103
3-3-1	歴史的街並み	104
3-3-2	近代的街並み	106
3-3-3	田園的街並み	108
3-3-4	景観重要建造物	110
3-3-5	景観重要樹木	112
3-4	制度別	115
3-4-1	景観協定	116
3-4-2	景観育成住民協定	118
3-4-3	景観地区	120
3-4-4	地区計画	124
3-5	景観育成の効果	127
第4章	参考資料	
4-1	色彩関連の解説	130
4-2	景観育成の基準	132

第1章

長野県の景観特性 [長野県景観育成計画]

1-1 全体の構造

1-2 地域の特徴

1 景観特性

1-1

全体の構造

【全体の構造】

信州・長野県は、日本アルプスをはじめ、多くの山々が連なり、世界的にみても魅力あるその山容や渓流の美しさと多様な動植物が織り成す豊かな自然環境を持ち、高山から山麓の高原には景勝地も多く、著名な休養地が随所にみられるなど、豊かな四季の彩りを持つ一流の観光地となっている。

また、山々の間を、日本を代表する河川が流れ、人々の日常活動はこの河川が作り出した平地に集中し、河川から山々の麓へと田園や里山などの親しみのある風景が広がっている。

その平坦地は、山々により大きく分節され、さらに、県土が南北に長いことによる気候差などから、それぞれが特徴のある、自然、歴史、文化、風土を有し、地域毎の個性豊かな景観を呈している。

1-1-1 自然

ア 地形

本県は、西境の北アルプス、南東境の南アルプスをはじめ、北信五岳を含む妙高火山群など、四方を2,000~3,000m級の山に囲まれており、その中に八ヶ岳連峰、中央アルプス等の諸山岳が重なりあって、複雑な地形を構成している。八ヶ岳や浅間山麓をはじめとする高原も多く、平地の形状としては、松本平、善光寺平などの扇状地や、天竜川、木曾川流域に見られる河岸段丘などがある。

イ 水系

千曲川、木曾川、天竜川など日本を代表する諸河川の源は本県に発しており、天竜川、木曾川は南に流れて太平洋に注ぎ、千曲川は犀川と合流して信濃川となり、北に流れて日本海に注いでいる。これらの流域に平地が広がり、千曲川流域の佐久平・善光寺平、犀川流域の松本平、天竜川流域の伊那谷、木曾川流域の木曾谷、諏訪湖を中心とした諏訪盆地がある。

ウ 植生

上信越境地帯の山地と戸隠山一帯及び北アルプスには、ブナの自然林が残されており、その下部にはミズナラの二次林が広く分布をしている。

北アルプス南部、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳などの標高の高い地域には、高山・亜高山帯自然植生が広く認められ、それらの山腹ではアカマツ、カラマツ等の植林が広い範囲を占めているほか、木曾谷周辺のヒノキの自然林及び植林、各地の扇状地や段丘上の果樹園、高地の山麓部の高原野菜畑の広がりなど、生活に根ざした植生も地域の重要な特性となっている。

エ 気象

多くは内陸型気候に属しているが、南北約212km、東西約120kmという長大な県域の中に多くの高山を有するため、地域毎に顕著な気候差が見られる。県域の中央に位置する松本・諏訪盆地は、年間降水量が少ない内陸型気候だが、上越境の地域は冬の積雪量が多い日本海型の気候に属し、県南部の伊那谷などは降水量が多い太平洋型の気候を呈している。

オ 眺望

四方を山に囲まれる本県では、平地から見る山々の美しい姿が地域の景観の背景となり、それぞれの地域の大きな特徴となっている。松本平や安曇野からは、北アルプス、中央アルプス、南アルプスの山並み、諏訪盆地からは、八ヶ岳、南アルプス、北アルプス南部への眺望が開け、佐久平からは、浅間山、八ヶ岳、北アルプス、善光寺平からは、北アルプスや北信五岳と呼ばれる、戸隠山、飯綱山、黒姫山、妙高山、斑尾山、伊那谷からは、中央アルプス、南アルプスの眺めを楽しむことができる。

1-1-2 社会

ア 人口

人口の集中する都市は、諸河川の流域に位置しており、長野、松本、上田、佐久、諏訪、伊那などの諸盆地に人口の集中が見られる。

イ 交通

主要な交通網は、松本から諏訪にかけての地域を中心として、南北に向けて広がっている。北は2本に分かれ、それぞれ松本平、善光寺平を通り北陸に結ばれ、南は3本に分かれ、それぞれが、山梨県から東京都へ、伊那谷を經由し岐阜県・静岡県へ、あるいは木曾谷を通り岐阜県から愛知県へと結ばれている。鉄道は、主として南北に広がっているが、幹線道路は四方に向かって広がっている。

ウ 観光

冬季の観光客が多い志賀高原、白馬、小谷、夏季に涼を求めて多くの観光客が訪れる八ヶ岳、中信高原、浅間高原、あるいは松本城や善光寺に代表されるような名所・旧跡を訪れる観光客が多い地域など、地域ごとに観光資源にも特徴がある。

観光地利用者統計調査によると、観光客に占める県外者は7割弱となっており、観光地類型別の消費額で見ると山岳と高原・湖沼で総額の6割弱を占めている。

1-1-3 歴史・文化

本県は、古くから東日本と西日本の文化の接点となっており、異なる地域文化を繋ぐ交通網の発達と『平』や『谷』毎の地域文化の継承により、大小多くの地域文化が織り成す豊かな地域性を有している。

また、それらの地域性を象徴する多くの史跡や文化遺産を有し、文化の香りと歴史の重みを今に伝えている。江戸時代を中心に整備された街道沿いには、古いまち並みが多く残されており、宿場の面影がある。

なかでも中山道の妻籠宿と奈良井宿、北国街道の海野宿は重要伝統的建造物群保存地区に選定され、保全が図られているほか、諏訪を中心とする各地の御柱祭、松本の飴市、遠山の霜月祭り、新野の雪祭りなどの地域ごとの伝統行事も、信州の景観育成に欠かせない魅力的な生活文化の一つとなっている。

1 景観特性

1-2

地域の
特性

【地域の特性】

- | | |
|--------------------|-------------|
| ①佐久平(千曲川上流地域) | ⑤木曾谷(木曾川地域) |
| ②善光寺平(千曲川下流地域) | ⑥伊那谷(天竜川地域) |
| ③松本平・安曇野(高瀬川・犀川流域) | ⑦諏訪盆地(諏訪湖) |
| ④白馬・小谷(姫川地域) | ⑧八ヶ岳地域 |

1-2-1 佐久平(千曲川上流地域)

北の浅間火山地、南の八ヶ岳連峰によって大きく領域が画され、これらが主要な景観構成要素ともなっている。その間を流れる千曲川沿いに佐久、上田の盆地が分布しているが、全体としては浅間山や八ヶ岳山麓地の広がり印象が強く、小諸市や上田市付近では集落や畑が緩やかな斜面上に広がり、特徴のある景観を呈しているほか、身近な里山やため池、棚田などの農村景観も多く残されている。

この地域は、古代信濃の文化的中心であり、塩田平は、『信州の鎌倉』と呼ばれ、寺社が多く歴史性の高い地域である。また、北国街道の宿場の面影を今も残している海野宿は重要伝統的建造物群保存地区に選定され、現在も650mにわたり古い家並みが残されており、清楚な歴史的佇まいが印象的である。

軽井沢は、我が国を代表する別荘地であり、多くの優れた景観資源を有しているものの、地域の持つ潜在力の高さから、開発圧力が高い傾向にあり難しい面もある。

この地域では、浅間山麓が、景観育成重点地域に指定され、きめ細やかな景観づくりが進められている。

1-2-2 善光寺平(千曲川下流地域)

千曲川と犀川が合流し、中低山の山並みが比較的近くに迫る盆地景観を呈する地域である。

田毎の月としてひろく知られている姥捨の棚田付近からの見晴らしなど、雄大な眺望景観も有している。

長野市から南は市街化が進んでおり、長野市から北には広大なりんご畑の景観が広がっている。また、善光寺は長野の象徴であり、毎年数多くの人々が訪れる場所となっている。

長野市の松代地区における武家屋敷のまち並みや須坂市の土蔵造りの建物を生かした景観づくり、あるいは、地域特性に精通した専門家のもと、個人から行政まで地域が一体となり個性豊かな景観づくりを進める小布施町など、地域ごとに先進的な取組みが進められている。

飯山市以北は豪雪地帯であり、中門造りの民家などの農村景観、雁木のまち並みなど特徴のある景観を有している。また、周辺には志賀高原、野沢温泉、斑尾高原、飯綱高原等の休養地が数多く立地している。この地域は、高社山麓・千曲川下流域が景観育成重点地域に指定され、ふるさとの山と川を中心にきめ細かな景観づくりが進められている。

1 - 2 - 3 松本平・安曇野(高瀬川・犀川流域)

北アルプス、上高地、美ヶ原など豊かな自然にめぐまれ、広大な水田の広がり、屋敷林の田園景観が地域の原風景ともなっている。

松本平は、中低山に囲まれた広い盆地の景観を有し、中心に位置する松本城は松本の象徴となっており、都市計画の高度地区の指定により、周辺の建築物の高さを制限するなど、積極的な景観の育成の取組みが進められている。

安曇野は、北アルプスの山並みとその前山が背景をなす広大な田園に点在する屋敷林の見晴らしに、道祖神やわさび田、河川、農業用水路などが彩りを添えています。これらを眺望できる国道147号などの沿道が景観育成重点地域に指定されており、きめ細やかな景観づくりが進められている。

1 - 2 - 4 白馬・小谷(姫川地域)

姫川流域谷あいの低地から、3,000m級の北アルプスの山並みが一気に切り立つ雄大な景観を呈し、仁科三湖など美しい自然に恵まれている。

地域の北部は全国有数の豪雪地帯で、八方尾根、柵池をはじめとするスキー場が多数立地し、県を代表するスキーリゾートを形成している。

また、千国街道(塩の道)や重要伝統的建造物群保存地区に選定されている白馬村青鬼地区の山村集落などに、歴史的な佇まいも残している。

北アルプスの山並みに並行する国道147・148号の沿道が景観育成重点地域に指定され、安曇野から白馬・小谷に至る北アルプスを展望できる地域が一体となり、きめ細やかな景観づくりが進められている。

1 - 2 - 5 木曾谷(木曾川地域)

御嶽山麓や木曾駒ヶ岳を主峰とする中央アルプスの豊かな自然に恵まれ、島崎藤村の『夜明け前』の冒頭に「木曾路はすべて山の中」とあるように、両側に山が迫る谷あいの地域である。また、その山々に木曾ヒノキの美林が残されている。

木曾11宿といわれる中山道の宿場町があり、妻籠、奈良井は重要伝統的建造物群保存地区に選定され、伝統的な建造物が多く残されている。

また、御嶽山の周辺には、開田高原、御岳高原等の高原が広がり、自然休養地ともなっている。

地域全体で公共サイン等の統一の取り組みを進め、地域の独自色である木曾グリーンを基調とした統一サインの整備に伴い、スキー場やゴルフ場の独自看板を撤去するなど、広域的に沿道の景観づくりが進められている。

01 長野県の景観特性

1-2-6 伊那谷(天竜川地域)

天竜川沿いに発達した河岸段丘からなる幅の広い明るい印象の谷であり、西には中央アルプス、東には南アルプスの二つのアルプスを望むことができ、これらが地域の重要な景観構成要素となっている。上伊那地域の河岸段丘のグリーンベルトと段丘上に残る平地林も、地域の景観の特徴となっている。

高遠城址は桜の名所として知られ、光前寺は歴史的景観に優れ、郷土環境保全地域として保全されている。また、近年、上伊那地域では、地域の方々により花による地域の景観づくりが進められ、自立的な景観育成の気運が高まっている。

下伊那地域には、下栗の里やよこね田んぼのような個性的で魅力ある峡谷の景観が残されている。

02 基本目標

1-2-7 諏訪盆地(諏訪湖)

標高759mにある諏訪湖を中心とした盆地状の地域であり、周辺の中低山の山並みに囲まれているため、開放的な印象を呈し、湖の東側の山は霧ヶ峰に続いている。

この地域は、諏訪大社を中心に門前町、宿場町として発展してきたほか、製糸から精密工業に至る産業のまちの顔も持っている。また、現在の湖周の景観は、上諏訪、下諏訪の温泉街、岡谷の市街地が迫る都市的な部分と田園的な部分があるなど変化に富むものとなっている。

03 景観育成手法と事例

1-2-8 八ヶ岳地域

八ヶ岳の山麓に広がる高原からなる地域であり、一部の山梨県の区域も含めて、広大な景観を呈している。原村や富士見高原から茅野の山麓にかけては、ペンションビレッジや別荘を中心とするリゾート施設がカラマツ林の中に立地している。

八ヶ岳山麓は、景観育成重点地域に指定され、きめ細やかな景観づくりが進められている。

04 参考資料

1 景観特性

1-3

景観の骨格構成

【景観の骨格構成】

低地・台地は主な河川流域に沿って立地し、平や谷を形成し、人間の諸活動の主領域として、『都市』や『田園』として景観の主軸となっている。また、この領域の両側には地域景観の背後の主要要素である山並みがあり、休養地や林産物の生産地でもある『山地・高原』がある。

さらに、個々のこうした領域を『道路』や『河川・湖沼』が繋ぎ、信州の景観の骨格を構成している。